

2022年1月14日 IRDAY

第3部（ボールパークプロジェクト）15：10-16：00

登壇者：(株)ファイターズ スポーツ&エンターテイメント 取締役 事業統轄本部長 前澤 賢  
取締役 事業統轄本部 副部長 三谷 仁志

**Q1. 2022年の営業利益の見通しについて**

A1. 2022年は収支±0を想定している。新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年の観客動員数は54万人だったが、今期は一定の入場制限を踏まえ100万人を前提に計画を行った。

**Q2. Fビレッジ開業後の売上高、営業利益計画（234億円・26億円）の考え方について**

A2. 売上はB to Cビジネスとしてチケット、グッズ、飲食販売による収入やB to Bビジネスの広告スポンサー収入があげられる。開場初年度の観客動員数は180万人を見込むが、過去の観客動員数から想定しても保守的に見ている。広告スポンサー収入も札幌ドームと比較して広告スペースも多く、収入増加に繋がると考えている。また、周辺エリアの開発によるイベントの増加や球場使用の多様化、新駅の開業による定住人口の増加も期待できることから、将来的な成長も見込めると考えている。

**Q3. 札幌ドームの賃貸から球場保有に代わることで変化する点は**

A3. 現在は賃借料や運営コストで年間20億円弱の費用を支払っている。球場を保有することで減価償却費約20億円の発生と運営コストの合算でコストは従前より上昇するが、ビジネス環境が改善し、グッズ・飲食や広告スポンサー収入が増加することで、売上、営業利益共に改善する見通しである。

**Q4. Fビレッジの管理・運営について**

A4. 球場はニッポンハムグループが中心となって投資を行っているが、それ以外のエリアに関しては事業パートナーに共同創造という形で出資いただいている。今後は、事業パートナーから賃貸料やマージンを頂くことで、収益を確保していく考えである。

**Q5. (株)ファイターズ スポーツ&エンターテイメント社の出資金240億円の出資比率について**

A5. 日本ハム本体79億円 ファイターズ82億円 電通40億円 MINTO39億円となる。

**Q6. 開業初年度の営業利益26億円と中計発表で示している20億円の差について**

A6. 中計発表時の20億円はその他セグメントとして開示しており、新規事業のコストも入っている。

以上